図書館だより

No.31
令和６年２月１日発行
函館工業高等専門学校

図書委員メンバーで

目　次

函館高専の図書館…… 1
特集 学生の読書感想文 …… 2･3
私の好きな本…… 3
退職教員の読書のすすめ ……4
新任教員からのおすすめ本 ……5
図書委員会の活動① ブックハンティング …… 6
図書委員会の活動② LL文庫企画展示 …… 7
本校教員執筆図書紹介…… 8
学年・学科別利用状況…… 8
編集後記 ……8

函館高専の図書館

学校長　阿部　恵

今年は４年ぶりに制限なしの「高専祭」が開催され、学生や地域の多くの人々でにぎわいました。従来の姿を復活させながら、学生会主体の新しい企画を盛り込んだ高専祭から生み出された学生たちのパワーが、本校に新たなエネルギーを注いでくれました。

ホームカミングデーの展示室では、昭和 37 年開校時から現在までの校舎や学生の様子を写した写真が展示されていました。開校当時、この戸倉の地にまだ校舎はなく、現在の千代台にあった中央中学校元校舎を仮校舎として開校されています。

本校の卒業生によると、図書館の開館は開校から８年後の昭和 45 年だったそうです。函館高専の１期生から４期生頃までは図書館のない本校で勉強に励んでいたことになります。学生の皆さんは、「もし本校に図書館がなかったら…」の環境を想像したことがありますか。当時はインターネットも普及していなかったので、学ぶことができる専門知識や技術はかなり限られていたものであったと想像できます。

さて、図書館が多くの人々に利用されるためには、空間、人、資料の３つの要素の充実が必要だと言われています。本校の図書館は、資料は十分とは言えませんが、人と空間という点では充実しています。司書資格を持つ職員がおり、数年前に改修された現在の図書館は、書棚やテーブルの合間に柔らかな日差しが降り注ぎ、とても明るい雰囲気で、落ち着いて勉強ができる空間です。何よりすばらしいのが、皆で作り上げている図書館であるということです。本校の複数教職員が寄贈してくれた観葉植物、清水久美子氏から寄贈された高森明氏作のすばらしい絵画、スタッフによる季節やイベントごとの展示や手作りの栞等は、利用者の心に安堵感を与えてくれます。さらに、学生たちによる推薦する書籍紹介等の自主的な活動が図書館を活気づけています。

今後、図書館はデジタル・ライブラリーの方向に進み、図書館という場所に拘らず、いつでも、どこからでも、誰でも情報にアクセスできる環境になるでしょう。その時、図書館という場所に求められるものは、本校図書館にある居心地の良さを感じさせる空間であり、人々が集まるコミュニティとしての図書館であるのではないかと思います。

開校当時の仮校舎（千代ヶ岱・中央中学校校舎）

学生の読書感想文

泊先生の日本語コミュニケーションⅡの授業でブックレビュー高評価本の読書感想文です。

『スマホ脳』

著者名　アンデシュ・ハンセン
出版社　新潮社

2年生産システム工学科
機械コース
三上　漣

私はこのスマホ脳という本を読んでみて現代社会でのスマートフォンの影響について考えました。

この本にはスマートフォンが私たちの集中力や注意力に与える影響について焦点を当てており、スマートフォンを使うことで瞬時に多くの情報が私たちの集中力を分散させストレスなどを増大させていることが示されています。また SNS の使用が社会的な孤立感を増大させてしまう可能性も指摘されています。

著者はスマートフォンを賢く活用することで普段の生活の質を向上させる方法についてもこの本で述べています。

この本はスマートフォンの使用に対する新しい視点を提供することで読者に自分のスマートフォン利用について考えさせてくれる本なのでぜひこの本を一度読んでみてください。

『崩れる脳を抱きしめて』

著者名　知念実希人
出版社　実業之日本社

2年生産システム工学科
電気電子コース
小板　佳司

この本は、研修医である主人公と難病を患ったヒロイン、心に傷を負った二人が心を通わせ、惹かれていく恋愛小説です。しかし、作中の序盤ではヒロインが多くの謎を残したまま亡くなってしまいます。主人公はヒロインの死に疑問を感じてその謎を追うことになります。この本は恋愛小説でありながらミステリー小説でもあるのです。

あらすじを読んだだけでも気になる部分がたくさんあり、物語中の伏線に気づいたときや、謎が明かされたときは心が大きく揺さぶられました。一見見聞きしたことがありそうなトリックや話の展開であっても、そこに至るまでの過程等に工夫がなされています。登場人物の心情が細かく、メリハリをもって描写されていて感情移入しやすかったため、物語のラストでは深く感動しました。

この本を読んでから、大切な人を失ってしまうということが決して他人事には思えず、これまで以上に大切な人との時間を大事にしようと思えました。

『同志少女よ、敵を撃て』

著者名　逢坂冬馬
出版社　早川書房

2年生産システム工学科
情報コース
森田　滋

独ソ戦の最中に故郷を失った主人公、セラフィマがソ連軍の狙撃手となり反攻作戦に従軍する物語。そこには、戦争の是非とか道徳とか倫理とかそういった類の話ではなくただ、戦争のリアルさがあった。今までのいかなる教育も資料も、私に戦争とはどういうものかを本格的に実感させるという点において、本書に劣っていた。この物語をただのフィクションだと言うことも出来るが、私はそれで終わらせることが賢い選択だとは思わない。

物語終盤、このような一節がある。『帰属をめぐる諸々の軋轢があったクリミア半島も、一九五四年にロシアからウクライナに自主的に割譲された。ロシア、ウクライナの友情は永遠に続くのだろうか』2022 年春から現在に至るまで続き、そして終わる気配のないロシア、ウクライナ間の戦争。何故このような戦争が起こってしまったのだろうか。私は本書に、その理由の一端があるように感じてしまってならない。

『時給三〇〇円の死神』

著者名　藤まる
出版社　双葉社

２年社会基盤工学科

小笠原　愛遥

この本は借金まみれで高校卒業すら怪しい主人公佐倉真司が、天真爛漫でクラスの中心人物花森雪奇に「死神」のアルバイトに誘われます。「死神」の仕事とは成仏できずにこの世に残る「死者」と対話して未練を晴らし、あの世へと見送る事。劣悪条件な多種多様な死者と対話するのですから多種多様な人生観・不安・未練があります。妹にプレゼントを渡したい姉、手紙を見つけたいおじさん、子供が生きているのか確かめたい母親、自分を虐待した母親に復讐したい娘…等。

特に私はその母親へ復讐したいと言う小学四年生の女の子四宮夕の話が好きです。彼女の話では成仏してからのどんでん返しが何よりも面白く苦しい話になっています。彼女の終活ノートに付き合い、ある程度仲良くなっていました。和やかな雰囲気があったのにも関わらず、最悪な展開になったのです。被虐待児と家族愛、私はこの章を読んでまた家族間の問題に頭を抱えました。是非ここは自分の目で読んで確かめてほしいです。

『アルジャーノンに花束を』

著者名　ダニエル・キイス
出版社　早川書房

３年物質環境工学科

山田　涼太

私はこの本の魅力は「主人公に感情移入しやすい文章構成」だと思った。

この本は、手術によって人間の知能を回復させるという研究の被検体である主人公チャーリイが、考えたことや自分の身に起きたことを記録している経過報告書で構成されている。手術前はひらがなで書かれた幼稚で拙い文章だったが、手術後は段々と漢字が使われるようになり自分の気持ちをうまく表現できるようになっていく。そのため、文章からチャーリイの知能が異常なスピードで発達していく様子やそれに置いて行かれるように幼いままの心を感じ取ることができる。主人公の頭と心に生まれる矛盾もこの物語の魅力の一つである。主人公の気持ちになって物語を読み進めていくと、チャーリイが手術によって高度な知能を得たのは正しい選択だったのかと考えさせられる。目先の利益や周りの声に惑わされ多くを望むことが果たしていい選択なのかチャーリイの人生を通して学ぶことができる作品である。

私の好きな本「Prisoners of Geography」

生産システム工学科　情報コース５年
ダビ　留学生(インドネシア出身)
（DAVI ERNEST PRADIPTA）

ティム・マーシャルの著書『Prisoners of Geography』は、世界の 10 枚の地図を検証し、その地域の地政学的な歴史を簡潔に述べている。ロシアがなぜヨーロッパ東部の国境地帯に懸念を抱いているのか、なぜポーランドをヨーロッパ平原だけでなくロシア平原への玄関口とみなし、その他の国境はかなり安全だと感じているのかがわかるだろう。

また、中国が「一帯一路」構想を通じてアジアとアフリカ全域に投資し、ついに積極的な役割を果たすようになった理由については、インドネシアの首都ジャカルタとバンドンを結ぶ最近開通した高速鉄道を例に、優れた考察がなされている。

ティム・マーシャルは読者に、地理が政治的決定、政府の戦略的決定、そして人々の態度に影響を与えるという素晴らしい教訓と気づきを与えてくれる。本書はまた、世界中で起こる革命やさまざまな禁輸措置のような政治的・歴史的出来事に、地理が背景を与えているという事実に目を開かせることもできる。

退職教員の読書のすすめ

一般系
菅　仁志

私の読書事始め

私は、子供の頃からずっと読書の楽しさについて理解することができませんでした。それが変わったのは、上京して郊外のアパートから電車で大学に通い始めるようになり、自然と毎日規則正しく本を読むようになってからです。『読書とは楽しい行為なんだ』というのを、初めて実感しました。毎朝、電車が大学最寄り駅に近づいてくると、ちょうどのタイミングで本が面白い場面に差し掛かり、続きを読むのを我慢して大学に向かいます。でも、夕方の帰宅時には朝読んだ本の場面が思い出されて、駅のプラットホームに着くや否や、その続きを読み始めるような日々でした。私が最もよく本を読んだ時期です。昨今は、たまに電車に乗ることがあっても、周りはスマホをいじっている人ばかりで、かく言う私も、旅行中の飛行機では、ついついビデオの方を見てしまうような始末ですが、これからも自分（の生活スタイル）に合った読書法が見つけられたらと思っています。

一般系
高橋　眞規子

英語をがんばろう！
と思ったのは・・・

学生時代から推理小説ファンで、高校時代は「エラリー・クイーン」シリーズが大好きだった。ハーバード卒でマンハッタン住まいの「僕はね」と語るメガネで紳士的な探偵の主人公にすっかりはまってしまい、かたっぱしから読破していった。が、ある作品でショックを受けた。突然、主人公が「俺はさぁ」と話す兄ちゃんに変貌したからである。原因は翻訳者の違いだった。一人称が変わるとこんなにも印象が違うんだと衝撃をうけ、当時の英語の先生に話すと、「英語では両方とも主語は「I」だよ。翻訳者さんは自分のイメージで人物像を作って訳すから。原作を原語で読んで本当のイメージをとらえるのが一番だね」と話してくれた。

「そっか、翻訳に頼っていたらダメなんだ。原作読めるようになろう！！」と決心し、英語をがんばった。この一人称「俺」事件がなかったら英語を真剣に学ぼうとは思わなかっただろう。エラリークイーンと当時の英語の先生には感謝である。

生産システム工学科
情報コース
佐藤　恵一

日常生活にも役立つ
ラグビー平尾誠二氏の教え

コロナ感染症が蔓延したころ、非接触が叫ばれました。格闘技のように集団で体を激突させるラグビーというスポーツは、このような時代の流れに反する唯一のスポーツだと思います。体の接触は、言葉以上のコミュニケーションがあります。そのような世界でも人の言葉により、気持ちが浮き沈みするものです。ラグビーの指導者として有名な平尾誠二氏は、著書や対談等で多くの名言を生前、残しました。「人を叱るときの４つの心得」①プレー（行動）は叱っても人格は責めない。②後で必ずフォローする。③他人と比較しない。④長時間叱らない。特に心に響くのは①の教えです。よく言ってしまいがちな「だからあなたの意見はダメなんです！」これは、内容のみを指摘しているのではなく、人格も否定しています。私たちは、人の言葉で勇気づけられることもありますが、傷つくこともあります。平尾氏の教えはスポーツだけでなく、私たち日常生活にも役立つものではないでしょうか。

新任教員からのおすすめ本

生産システム工学科
機械コース
吉田　圭輔

タイトル：地球から来た男
著 者 名：星新一
出 版 社：角川書店

私は、年に数回小学生の長男をお供にキャンプに行く。朝から、キャンプ道具を積み込んだり、長男の虫捕りセットの準備を手伝ったり、バタバタと時間が流れる。この本は、そんな出発の５分前にカーゴパンツのポケットにねじ込まれることが多い。

ショートショートと呼ばれ、短編集よりも、もっと一話一話が短い。長男がトンボ捕りに没頭している最中など、空いた時間にさっと読めるのが良い。文章は平易だし、殺人などがあまり描かれていないので気軽に読める。（だから、子供が寝る前の読み聞かせにも向いている）

SF だが､「ヒトってそういうところあるよな」と共感しやすいものが多いので、読書が苦手だという人にもとっつきやすいだろう。何回読んでも、この短い文章の中でよくこれだけ、情景を伝え、オチまでつなげられるなと、感心させられてしまう。

ぜひ一度、満天の星空の下、焚火の前で、“地球から来た男”を味わってみてほしい。

社会基盤工学科
金（こん）　俊之

タイトル：深夜特急
著 者 名：沢木耕太郎
出 版 社：新潮社

皆さんが羨ましく、正直その可能性に妬みすら感じる。着任してからすべての学生に思うことだ。いま、無限の可能性が皆さんのミライに向けて広がっている。だけど皆さんの大半は、目の前のことでいっぱいいっぱい。若すぎる皆さんは、自分の可能性が無限であることも、それを日々潰しながら生きていることにも気づいていない。それはしょうがないのかもしれない。自分も皆さんと同い年の時はそうだったのだろう。紹介する本は、40 年ほど前に刊行されたもので､デリーからロンドンまでバスを乗り継いだ紀行小説だ。この本を自分が手に取ったのは不惑を越えてから。限られた可能性となったこの歳で、まだ見ぬ世界にうつつをぬかしている。この本に書かれている「ほんとうにわかっているのは、わからないということだけ」という世界観を皆さんが知ったら、失った可能性のリカバリーはまだまだきく。今、やり直しがきく皆さんが羨ましい。さぁチャレンジだ。

一般系
隅田　真一郎

タイトル：宇宙兄弟
（1～43 巻最新刊）
著 者 名：小山宙哉
出 版 社：講談社

「俺の敵はだいたい○○です」

私の本棚の中から皆さんにお薦めしたい本は「宇宙兄弟」（小山宙哉作）です。この作品は、幼い頃に宇宙飛行士になる約束をしたある兄弟の物語です。弟は目標に向かって脇目も振らず真っすぐ努力を重ね、夢を実現させます。一方、主人公の兄は別の道を歩んでいましたが、様々なタイミングや後押しにより､31 歳にして宇宙を目指す決心をします。多くの人が兄同様に、幼い頃抱いた夢に向かって一直線！とはいかない人生を歩んでいるのではないでしょうか。そんな中で、自分のやりたいことは何なのだろう、自分の武器とは何なのだろう、そんなことを考えながらふと立ち止まったり、道に迷ったりすることもあるかもしれません。この作品の中には、そんな時、一歩を踏み出せるよう背中を押してくれる言葉や心に刺さる言葉が溢れています。工学的な内容も多く含まれているため、高専生にはぴったりです。タイトルの○○に入る言葉は何なのか、是非読んでみてください。

学生図書委員会活動報告①

ブックハンティング

今年度も、図書委員の学生、一般公募で参加してくれた学生の皆さんと、令和５年7月7日(金)文教堂函館昭和店にてブックハンティングを開催しました。

ブックハンティングとは、実際に本屋で読みたい本を選べるイベントで、参加者が思い思いに選んでくれた本は、図書館の貴重な蔵書となっています。

後日、選書した本の POP を各々作成し、本と一緒に展示を行いました。

～ ブックハンティング選書本から ～

◆天久鷹央の推理カルテ／知念実希人著

僕が紹介する本は、「天久鷹央の推理カルテ」という本です。河童に会った、人魂を見た、突然赤ちゃんを身籠った、そんな摩訶不思議な事件の裏に隠された“病”とは？頭脳明晰、博覧強記の天才女医、天久鷹央が解き明かす新感覚メディカルミステリー。ぜひ、読んでみてください。

（1年2組 佐々木省吾）

◆アストレア・レコード1：邪悪胎動／大森藤ノ著

この本は、「ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか」の外伝で、本編から約７年前の出来事が描かれています。

本編を読んだことがある方は、ぜひ読んでいただきたい物語ですし、本編を読んだことがない方もぜひ、この機会に本編とご一緒に読んでみてください！

（1年5組 佐藤竜）

◆猫と妻と暮らす：蘆野原偲郷／小路幸也著

この本は厄祓いが出来る人物を輩出してきた蘆野原の郷で、ある日妻が猫になってしまうお話です。日常の中で「こんなことが起きたらいいな」という非現実的な想像が実際にあったような気分を味わえる作品です。不思議な感覚をぜひ体験してみてください！

（1年3組 片谷真緒）

◆夜が明けたら、いちばんに君に会いにいく／汐見夏衛著

どこにいても息苦しくて、世界は暗い灰色で…そんなとき、君の絵に出会った。

マスク依存症の少女と画家を目指す少年の、「大嫌い」から始まったはずの恋の物語。

２人の恋の結末は？タイトルの意味は？現代の生きづらさと恋の難しさに触れることのできる、続きを読みたくなるような、引き込まれる魅力のある小説です。

（1年5組 塚越あやめ）

NITH.LIB6314

イベント情報をはじめ、
おすすめ本や図書館からのお知らせなどは、
Instagram やホームページをご覧ください。

函館高専図書館

学生図書委員会活動報告②

LL 文庫企画展示

CCH(キャンパス・コンソーシアム函館)が企画するライブラリーリンクでは、毎年、共通のテーマに沿って各図書館が選んだ本を同時に展示する「LL文庫」を実施しています。

今年のテーマ「私のペースでしおりはすすむ」に合わせて、図書委員それぞれがおすすめする本を選び、展示しました。

CCH の活動については
こちらから→

～ LL 文庫・おすすめ本から ～

◆渚にて／ネヴィル・シュート著

第三次世界大戦が勃発、北半球諸国の核攻撃によって世界中に放射能の浸食が進む。北半球の国々は既に滅亡し、残されたのは僅かな国々のみ。じっくり放射能が蝕むなかでの、オーストラリアでの生活の変化、限られた娯楽。大好きな趣味や庭造りを楽しむ人、失われた家族を想う人―すっかり変わってしまった状況下でも、変わらない日常を最期まで楽しむ姿に心を打たれます。

（1 年 1 組 岸真央）

◆キノの旅／時雨沢恵一著

この物語は、人間のキノと言葉を話す二輪車エルメスが、文化の違う様々な国へ旅をするお話です。行く国々では、様々な出会いがあり、そのたびに国の背景やキノ達の人柄を感じ取ることができます。この作品は、どの話から読み始めても楽しめる作品になっているので、気になるお話から読んでみてください！　（1 年 2 組 田畑陽大）

◆ZOO 1（新潮文庫）／乙一著

「私」は、ある男性の世話役として創られたロボット。そう割り切って、彼と共に生活していくうちに「私」にある変化が訪れる…。

この本にはこのようなお話が五つ収録されています。どれも短時間でサクッと読めるのに、最後まで読んだ時の衝撃は忘れられません。ぜひ読んでみてください。　（1 年 4 組 藤巻紫音）

◆死にたがりの君に贈る物語／綾崎隼著

人気作家の訃報。未完に終わった話題作。物語の結末を探るべく 7 人の熱狂的なファンが小説になぞらえて山中の廃校で共同生活を送ることに。仲間の中に犯人がいるような緊迫感と息を呑む展開、躍動感のある文章に心を打たれました。生きることに希望が持てない人に読んでほしい！痛切な青春ミステリーです。

（1 年 1 組 新島一華）

◆ペンギン・ハイウェイ／森見登美彦著

この物語は、小学 4 年のアオヤマがクラスの二人の友達とともに歯科医院のお姉さんについての謎やアオヤマが住んでいる街でペンギンが謎に発生していることについて研究し、その原因を解明する物語です。そして現実ではありえないことがたくさん起きていて、とても面白い内容でした。この本は小学生くらいから大人まで、どの年代で読んでもとても興味深いと思いますので是非読んでみてください！　（1 年 3 組 駒木悠太）

◆同志少女よ、敵を撃て／逢坂冬馬著

私はこの本を読んでその内容に驚愕しました。テンプレート的な内容になると思いきやまさかのどんでん返しがあったりして、考察の余地がある素晴らしい作品となっています。また独ソ戦についての知識があればもっと楽しめますぜひ読んでください！！　（1 年 4 組 速水俊太朗）

本校教員　執筆図書紹介

松永　智子（物質環境工学科）

海洋天然物化学　化学の要点シリーズ 43（共立出版）

p1～10　第１章 鮭やエビの色素 アスタキサンチンを共同執筆。

海洋天然物化学は「Drug from the Sea （海から薬を）」をスローガンに発展してきた学問で、化学をツールに海洋生物の生き様を学び、それを新薬開発へとつなげてきました。少し難しい部分もありますが、まずは序を、そして興味のある章を読んでみてください。

図書館緑化推進

図書館では、心地よい癒しの空間を目指し、また視覚疲労軽減やストレス緩和など様々な効果を期待し、館内の緑化推進を行っています。

これまで観葉植物を寄贈頂きました教職員の皆様、ありがとうございました。今後ともご協力をよろしくお願い致します。

学年・学科別利用状況

学年・学科別　貸出冊数（2023年4月1日-12月31日）

学年＼組	１組	2組	3組	4組	5組				学年別計
１年	161	147	118	114	114				654
学科＼学年	生産システム工学科			物質環境工学科	社会基盤工学科	生産システム工学専攻	物質環境工学専攻	社会基盤工学専攻	学年別計
	機械コース	電気電子コース	情報コース						
２年	26	28	118	56	52				280
３年	36	24	31	191	20				302
４年	3	32	16	47	15				113
５年	27	22	93	164	40				346
専攻科１年						32	0	0	32
専攻科２年						43	7	5	55
									1,782（総計）

・クラス別平均貸出冊数は、57冊でした。昨年に比べて6冊アップ！

・貸出冊数が一番多かったクラスは**3年物質環境工学科**で、**191冊**でした。たくさん借りてくれてありがとう！

編集後記

図書館だより第 31 号をお読みいただきありがとうございます。執筆してくださった学生、教職員の皆様のご協力により、今年も無事発行することができました。心よりお礼申し上げます。スマホに頼りきりの私にとって、『スマホ脳』という本は、これまでの考えを改めなければならないというきっかけを与えてくれるものとなりました。もう少し本や新聞を読む習慣を身に付けていきたいです。

（総務課 図書・情報係長　富田雄喜 記）

図書館だより NO.31

独立行政法人　国立高等専門学校機構

函館工業高等専門学校　図書館

函館市戸倉町 14 番 1 号

TEL 0138-59-6314

（表紙題字：社会基盤工学科教授　平沢　秀之）